

自然体験活動を通じた郷土教育企画書

【海洋センター名】 東栄町B&G海洋センター

【担当者名】 石原和季

目 的

写真や虫取り網を使ってビオトープ内の動植物、地理を観察することで、参加者の郷土の自然に興味を持つ機会を提供させる。同時に海洋性レクリエーションと密接に関わる水辺の環境保全、海洋ごみに関する知識、意識の向上も図る。また、グループ別行動やゲーム性を通して他市町の参加者同士を交流させることで参加者の視野拡大も図る。

概 要

一定の時間内に参加者がチェキ（直ぐに現像できる写真）を使用し、グループに分かれてビンゴボードに書かれた生物や植物を写真で撮影する。対象の生物や植物を図鑑で探し、写真を撮り、ビンゴボードに貼る。
時間終了後、グループごとに何を撮ったのか発表する。

日時 令和6年8月24日（土） 時間: 9:20～10:20

場所 愛知県新城市作手B&G海洋センター 周辺（鬼久保ふれあい広場 湿原の森）

内 容

【対象者】

小学4、5、6年生

【スタッフ】

B&Gセンターインストラクター、行政職員等

【講師・ボランティア（および専門知識や技能）】

講師は新城市作手B&Gセンター 職員

【準備物】

軍手、セロハンテープ、ビンゴボード、カメラ（チェキ5個）チェキ用フィルム5セット、図鑑（植物・生物）、虫取りセット（網・

【活用する地域資源】

新城市作手B&G海洋センター付近のビオトープを活用

【活動プログラム／フィールド】

ビオトープ

【郷土教育の要素】

- ・自ら郷土の自然を五感で感じてもらう（自ら探す行動、動植物の観察、グループ内での相談）。
- ・ビンゴの作成、ゲームをすること。
- ・グループ毎の進捗の差は指導員が参加者の補助を行う。

【対象者に「郷土の学び」を伝える手法・手段】

愛知県内において、豊かな自然ときれいな水源を擁する奥三河地域について、作手高原の湿原や森を活動フィールドとして、そこに生きる様々な生物等を観察し、三河の自然環境の貴重さと、将来に向けた保護の重要性を子供たちに伝える。

情報発信方法（広報・SNS等）

【誰に】地域の小学生や、スイミングスクールに通っている小学生、クラブ活動をしている小学生など

【地域のどんな魅力を】自然体験

【どうやって伝える】広報・SNS等

経費〔予算〕

チェキ5個：50,000円 フィルム50枚入り：6,000円 軍手46双：1,820円 虫取りセット：7,100円

大人用ウェーダー5着：31,400円 消耗品：15,000円 計 111,320円